

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：3 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（1組：八神・中川）（2組：中川・八神）（3組：中川・八神）（4組：八神・中川）

使用教科書：（ 第一学習社 高等学校 新編現代の国語 ）

教科 国語 の目標：生活していく上で基本となる知識や表現力を身に付ける。

【知識及び技能】 語句の意味を理解し、文脈に合わせて適切な表現をしようとしている。

【思考力、判断力、表現力等】 他者と意見を共有して、自分の考えを深めようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】 課題に興味を示し、主体的に取り組もうとしている。

科目 現代の国語 の目標：説明的文章の読解を通じて、論理的な思考力を身に付ける。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な語句の意味を理解し、文脈に合わせて適切な表現をしようとしている。	筆者の考え方について、他者と意見を共有し、自分の考えを深めようとしている。	課題に興味を示し、主体的に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
			話	聞	書	読					
1 学 期	A イースター島になぜ森がないのか イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 ※ベーシック国語では、漢字演習、漢字テストを実施する。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。	○	○	○	20
	確認テスト①						○	○		1	
	B 言葉の海のオノマトペ 音声と意味との関係から、言語一般およびオノマトペの機能的特徴を理解し、音としての言葉への興味を広げる。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。	○	○	○	20
確認テスト②							○	○		1	
2 学 期	C 十六歳のとき 人生の岐路となった筆者の旅を体験することにより、世界にはさまざまな出会いがあることを知る。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辞について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。	○	○	○	24
	確認テスト②						○	○		1	
	D 「未知」はいくらでもある 体験をふまえて提示された「未知」に対する筆者の捉え方を理解し、自分に照らして考えを深める。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○	○	○	○	【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辞について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。	○	○	○	16

教科：地理歴史科

科目：地理総合

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：（1組：西）（2組：西）（3組：中竹）（4組：中竹）

使用教科書：（『地理総合』東京書籍 『基本地図帳 改訂版』山川出版）

教科 地理歴史科

の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる今日的な課題の解決に向けての構想力、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関する諸事象について、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する深い理解、他国や多文化主義の考え方を尊重することなどの自覚を深める。

科目 地理総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関する基礎的な知識を習得する 学んだ内容を日常生活で活用する技能を身につける	資料を読み取り、地理的事象について考察することができる 学んだ知識を活用し、その内容を表現する能力を身につける	地理的事象に興味・関心を持ち、主体的に学習する姿勢を身につける 他者と協働する能力を身につける

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	地理学習の基礎的な知識・技能を身につける 国際社会に生きる日本人としての自覚を深める	【地図や地理情報システムでとらえる現代社会】 ①私たちが暮らす世界 ・緯度・経度 ・時差 ・地球儀と世界地図 ・日本の位置と領域	【知識・技能】 各地図の特徴・見方・用途、日本の位置や領域についての基礎的な知識を身につけている 【思考・判断・表現】 地球上の位置に関する事象について、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している 【主体的に学習に取り組む態度】 地球上の位置に関する事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に探究しようとしている	○		○	10
	地図の基礎的な知識を身につける 地図活用能力を向上させる GISを理解し、活用能力を向上させる	②地図や地理情報システムの役割 ・地図の種類 ・地形図のルール ・主題図の種類と読み取り ・地理情報システムと地図 ・テーマ学習 「今昔マップonthewebを使って比較してみよう」	【知識・技能】 地図についての基礎的な事柄を理解し、その知識を身につけている 【思考・判断・表現】 さまざまな統計数値を、適切な主題図で表現している GISを操作し、計測結果を表示している 【主体的に学習に取り組む態度】 アナログやデジタル地図の両方について関心を高め、作業を行うことができる	○	○		10
2 学期	現代社会における国家間の結び付きを理解する グローバル化の意義・課題について考察する	③資料から読み取る現代社会 ・交通の発達 ・情報通信の発達 ・国境をこえる人々の移動 ・つながる世界、多極化する世界	【知識・技能】 交通・通信技術の発展と国境をこえたさまざまな結び付きを理解し、その知識を身につけている 【思考・判断・表現】 グローバル化について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している 【主体的に学習に取り組む態度】 グローバル化の進む現代世界について、関心と課題意識を高め意欲的に追究しようとしている	○	○		10
	生活文化の多様性・自然環境と人々の関連について理解する 生活文化の変容と影響について考察する	【国際理解と国際協力】 ①人々の生活文化と多様な地理的環境 ・生活文化の多様性と国際理解 ・生活文化と自然環境①地形 ・生活文化と自然環境②気候 ・生活文化と産業 ・テーマ学習 「自分の行きたい国を調べよう」	【知識・技能】 世界にみられる多様な文化について、基礎的な事象と追究の方法を理解し、その知識を身につけている 【思考・判断・表現】 文化の違いがなぜ生じるかということについて、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している 【主体的に学習に取り組む態度】 文化の多様性と他文化への理解や共存に関して関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている		○	○	10
	地球的課題について理解を深め、解決や改善に向けた取り組みを考察する	②さまざまな地球的課題と国際協力 ・地球環境問題 ・資源エネルギー問題 ・人口問題 ・食料問題	【知識・技能】 地球的課題について、それぞれの基礎的な事象を理解し、その知識を身につけている 【思考・判断・表現】 地球的な課題について、地域性や日常生活との関連、現代社会の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している 【主体的に学習に取り組む態度】 地球的課題に対する関心を高め、それらを意欲的に探究し、とらえようとしている	○	○		10
3 学期	自然災害と人々の生活への影響を理解し、持続可能な地域づくりのあり方について考察する	【持続可能な地域づくりと私たち】 ①自然環境と防災 ・日本の自然環境の特色 ・さまざまな自然災害と防災 ・テーマ学習 「ハザードマップを作ろう」	【知識・技能】 日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基礎的な事象についての知識を身につけている 【思考・判断・表現】 日本列島のさまざまな自然災害と防災対策について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 日本列島の自然災害と防災に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている		○	○	10
	地域調査の手順や手法を理解し、身	②生活圏の調査と地域の展望	【知識・技能】				

近な地域における調査・発表を实践する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査 ・地域の課題 ・テーマ学習 「住んでいる街を調査しよう」 	地図や統計などの諸資料について、有用な情報を選択して読み取り、図表にまとめたりしている 【思考・判断・表現】 身近な地域の特徴を明らかにするために、意欲的に地域調査に取り組もうとしている 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な地域の特徴を明らかにするために、意欲的に地域調査に取り組もうとしている	○	○	○	10
						合計
						70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

数学

科目 数学 I

教科： 数学

科目： 数学 I

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： 中島・松井

使用教科書：（ [改訂版]東京書籍 数学 I Essence ）

教科 数学

の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数・分数の計算を通して、計算の方法を復習し習熟を高める。 【思考・判断・表現】 問題を解決する際に、すでに学習した計算の方法と関連付けて考えたりすることができる力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 式の処理が確実にできるよう、粘り強く取り組む姿勢を養う。 	<p>・指導事項</p> <p>学びなおし（復習）</p> <p>正負の数の加減乗除</p> <p>分数の計算</p> <p>文字式の表し方</p> <p>・教材：プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算ができる。 【思考・判断・表現】 問題を解決する際に、すでに学習した計算の方法と関連付けて考えたりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式の処理が確実にできるよう、粘り強く取り組むことができる。 授業に臨む姿勢・問題に取り組む姿勢 	○	○	○	18
	確認テスト①			○	○		1
	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 式の適切な計算方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 問題を解決する際に、すでに学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的にとらえたり目的に応じて適切に変形したりすることができる力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする態度を養う。 	<p>・指導事項</p> <p>1章 数と式</p> <p>1節 式の計算</p> <p>2節 実数</p> <p>3節 方程式と不等式</p> <p>・教材</p> <p>CATCH</p> <p>プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次の式を中心に、式を適切に計算することができる。 【思考・判断・表現】 問題を解決する際に、すでに学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的にとらえたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢・問題に取り組む姿勢 事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 	○	○	○	18
確認テスト②			○	○		1	
2 学 期	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。 	<p>・指導事項</p> <p>2章 2次関数</p> <p>1節 2次関数とそのグラフ</p> <p>2節 2次関数の値の変化</p> <p>・教材</p> <p>CATCH</p> <p>プリント</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 授業に臨む姿勢・問題に取り組む姿勢 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 	○	○	○	22
	確認テスト③			○	○		1
	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導く。 【学びに向かう力、人間性等】 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。 	<p>・指導事項</p> <p>3章 三角比</p> <p>1節 鋭角の三角比</p> <p>2節 三角比の応用</p> <p>・教材</p> <p>CATCH</p> <p>プリント</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 授業に臨む姿勢・問題に取り組む姿勢 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 	○		○	22
確認テスト④			○	○		1	
集合と命題	・指導事項	集合と命題					
【知識及び技能】	4章 集合と論証	【知識及び技能】					

3 学 期	<p>基本的な集合と命題の概念を理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 物事を多面的にみたり目的に応じて適切に変形する力を習得する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を数学を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。</p>	<p>1 節 集合と論証</p> <p>・教材 CATCH プリント</p>	<p>基本的な概念を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 物事を多面的にみたり目的に応じて適切に変形する力を習得している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を数学を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>	○	○	○	10
	<p>【知識及び技能】</p> <p>・データを表やグラフに整理したり、基本的な統計量を求めたりすることができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・データの散らばり具合や傾向を表やグラフ等を用いて表現する方法を考察させる力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりする態度を養う。</p>	<p>・指導事項 5章 データの分析 1 節 データの分析</p> <p>・教材 CATCH プリント</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>・データを表やグラフに整理したり、基本的な統計量を求めたりすることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・データの散らばり具合や傾向を表やグラフ等を用いて表現する方法を考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</p>	○	○	○	10
	確認テスト⑤			○	○		1
						合計	105

年間授業計画

高等学校 令和8年度 (1学年用) 教科 理科 科目 生物基礎

教科: 理科 科目: 生物基礎 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 1 学年 1 組 ~ 4 組

教科担当者: (1組: 谷岡・木原) (2組: 谷岡・木原) (3組: 谷岡・木原) (4組: 谷岡・木原)

使用教科書: (生基007-902 「高校生物基礎 visual」 実教出版)

教科 理科 の目標:

【知識及び技能】 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し、科学的に探究する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】 物質とその変化に主体的に関わり、主体的に探究しようとする態度を身に付けている。

科目 生物基礎 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> 様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。 生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解させる。 生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。(確認テスト) 試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。(実験評価) 	○			12
		<ul style="list-style-type: none"> 資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見だし表現することができる。 細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。(発問評価・課題提出) 		○		
		<ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性を、実験や観察を通して見だし、理解しようとする。 原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする。(発問評価・授業態度) 			○	
第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> 生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解させる。 光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 生体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。(確認テスト) 	○			12
		<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。(課題提出) カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。(ワークシート) 		○		
		<ul style="list-style-type: none"> 資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。(ワークシート) 			○	
第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解させる。 DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解させる。 DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。 DNAの複製・分裂は細胞周期にあわせて行われることを理解させ 	<ul style="list-style-type: none"> DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。(確認テスト) 	○			
		<ul style="list-style-type: none"> 資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだ 				

2 学 期		る。	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。(発問評価・課題提出) 		○	10	
			<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。 ・ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。 ・細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見だし、理解しようとする。(ワークシート) 			○	
	2節 遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内でつねに発現しているわけではないことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。(確認テスト) ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。(実験評価) 	○		8	
			<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。(確認テスト・ワークシート) ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。(ワークシート) 		○		○
第3章 1節	ヒトのからだの調節 体内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 ・恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 ・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 ・腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。(確認テスト) 	○		6	
			<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。(確認テスト・課題提出) 		○		
			<ul style="list-style-type: none"> ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。(ワークシート・授業態度) 				○
3 学 期	3節 免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見だし理解させる。 ・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 ・免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察させる。 ・ヒトの身近な免疫疾患について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。(確認テスト) 	○		16	
			<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 ・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ・ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。(確認テスト・課題提出) 		○		
			<ul style="list-style-type: none"> ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。(ワークシート・授業態度) 				○
第4章 1節 2節	生物の多様性と生態系 生態系とその成り立ち 植生とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> ・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 ・植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解させる。 ・植生内の光環境の変化や土壌の発達によって遷移が進行することを理解させる。 ・気温や降水量の違いにより、地球上には多くのバイオームが成立していることを理解させる。 ・遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 ・植生の遷移についてその過程を理解している。 ・地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。(確認テスト) 	○		6	
			<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づいて、遷移の要因を見出して理解することができる。 ・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。 ・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができる。(確認テスト・課題提出) 		○		
			<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づいて、植生が変化する要因を見出し、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする。 ・地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを見出し、その要因を説明しようとする。 				○
							○

		しいることを理解しよつとらる。 (ワークシート・授業態度)					
							合計
							70

高等学校 令和8年度（1学年用）

保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：（1組：大村・山内）（2組：大村・山内）（3組：大村・山内）（4組：大村・高塚・（組： ）（組： ）

使用教科書：（現代高等保健体育 改訂版 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】運動の特性に応じた技能等及び健康安全についての理解と技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康について課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の実践を通して、運動のたのしさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続できるようにするために体力や技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。	運動の経験を通して、互いに協力したり参画したりする意欲を育てる。安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元「体づくり運動」 【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組める力を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 自主的に取り組むとともに、互いの助け合いを教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保する態度を養う。	「縄跳び」 ・ダブルダッチ ・大縄跳び 「体力テスト」 ・50m走 ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横跳び ・立ち幅跳び ・ハンドボール投げ ・20mシャトルラン	【知識・技能】 ・定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解している。 ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付いたり関わったりすることができる。 【思考・判断・表現】 ・ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 ・課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見つ、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。 ・仲間の課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。	○	○	○	15
	E 単元「球技」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	「バレーボール」	【知識・技能】 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。 ・「ネット型」：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。 ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見すること。 ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	15
2 学 期	E 単元「球技」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	「バスケットボール」 「バドミントン」	【知識・技能】 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。 ・「ネット型」：①ボールを相手側のコート上の空いた場所に打つ返すことができる。②ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。 ・「ゴール型」：①ボールをコントロールしてパスやシュートができる。②空間を作り出すための動きをすることができる。 【思考・判断・表現】 ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。 ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見すること。 ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	24
	H 単元「体育理論」 【知識及び技能】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解すること	「スポーツの歴史的発展と多様な変化」 「現代のスポーツの意義や価値」 ・視聴覚教材活用	【知識及び技能】 ・スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて多様に変容してきていることを理解する。また、我が国から世界に普及し、発展して				

高等学校 令和8年度（1学年用）

保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：（1組：大村）（2組：山内）（3組：山内）（4組：大村）（組：）（組：）

使用教科書：（現代高等保健体育 改訂版 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】運動の特性に応じた技能等及び健康安全についての理解と技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康について課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 A 単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに興味をもち、学習活動に意欲的に取組もうとする態度を身に付けさせる。	○指導事項 ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ○教材 ・『現代高等保健体育』（大修館書店） ・プレゼンテーションソフト	【知識・技能】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解することができる。 【思考・判断・表現】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに興味をもち、学習活動に意欲的に取組もうとしている。	○	○	○	10
2 学期 A 単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに興味をもち、学習活動に意欲的に取組もうとする態度を身に付けさせる。	○指導事項 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり ○教材 ・『現代高等保健体育』（大修館書店） ・プレゼンテーションソフト	【知識・技能】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解することができる。 【思考・判断・表現】 現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに興味をもち、学習活動に意欲的に取組もうとしている。	○	○	○	16
3 学期 B 単元 安全な社会生活 【知識及び技能】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にする。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすることに興味をもち、学習活動に意欲的に取組もうとする態度を身に付ける。	○指導事項 ・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法 ○教材 ・『現代高等保健体育』（大修館書店） ・プレゼンテーションソフト	【知識・技能】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすることができる。 【思考・判断・表現】 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすることに興味をもち、学習活動に意欲的に取組もうとしている。	○	○	○	6

確認テスト			○	○		1
						合計
						35

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

芸術 科目 音楽 I

教科：芸術 科目：音楽 I

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：（1・2・3・4組：中嶋）

使用教科書：（MOUSA1 教育芸術社）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特筆について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯に渡り芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め心豊かな生活や社会を創造してゆく力を養う。

科目 音楽 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽の表現方法や形式について幅広く理解し、必要な技術を身に付けるようにする。	音楽の良さや美しさを味わったり、表現したりすることができるようにする。	音楽の幅広い活動を通して、生涯に渡り芸術を愛好する心情を育てるとともに、音楽文化についての理解を深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
1 学 期	音楽の授業への導入 【知識及び技能】正しい発声を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】姿勢について考え 実践する。 【学びに向かう力、人間性等】自ら工夫しながら実践する。	校歌 ・呼吸法や発声法を生かした歌唱を身につける。 ・曲と歌詞の内容とのかかわりを生かした表現。	○			・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法など歌唱するための技術を身に付けるようにしているか。 ・自分なりのイメージをもってどのように歌うか 工夫しているか。	○	○	○	4
	ポピュラーソング 【知識及び技能】リズムや拍の流れを感じ、のびやかに歌う。 【思考力、判断力、表現力等】曲の特徴を感じ取り表現する。 【学びに向かう力、人間性等】いかに自分らしく、楽しく表現できる	群青 いのちの歌 ・親しみのあるポピュラーソングでクラスの歌声づくりをする。 ・歌詞の内容を感じ取って楽しく歌う。	○			・実技テスト ・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法など歌唱するための技術を身に付けるようにしているか。 ・自分なりのイメージをもってどのように歌うか工夫しているか。	○	○	○	6
	ボディーパーカッションに挑戦 【知識及び技能】基本的なリズム符の復習。 【思考力、判断力、表現力等】手拍子、足踏みを使いリズム奏をする。 【学びに向かう力、人間性等】各パートの役割を理解し、互いに拍感をもってリズム打ちを習得する。	Plymouth Rock 残酷な天使のテーゼ（ボイストンガ） ・拍感をもち曲の流れにのった奏法ができる。 ・自分のパートの役割や構成を捉え歌うことができる。	○	○		実技テスト ・リズムの読譜に関心をもち、手足を使った身体表現ができたか。 ・よりよいアンサンブルにしようとする意図をもって取り組んだか。	○	○	○	6
	曲想を感じ取って、ふさわしい発声法で歌おう【知識及び技能】イタリア語の発音に挑戦。【思考力、判断力、表現力等】イタリア語のアクセントが旋律とどのように関わら着目する。【学びに向かう力、人間性等】人々の生活や感情を表したカンツォーネを学ぶ。	イタリア歌曲 Caro mio ben Ave Maria ・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法など取得する。 ・イタリア語の発音や曲の盛り上がりを意識する。 ・歌と伴奏の役割を生かす。	○			実技テスト ・フレーズが長い曲なので息をしっかり支えコントロールすることができたか。 ・メロディーの美しさを味わいながらレガートで歌おうとしているか。	○	○	○	4
2 学 期	楽器の奏法を身に付け特徴を生かして演奏しよう。 【知識及び技能】楽器の奏法を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】テンポ、構成など知覚し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】リズムにのってスムーズな奏法ができる。	器楽 パーカッション 「ドラム」 ・BD、SD、HCを使って8ビートを刻む。 ・ディズニー・アニメ「テン音楽の旅」 ・リズムや旋律の反復、音の重なりを楽しみを感じ取って演奏する。	○			・実技テスト ・スティック、ペダルを使い簡単な曲に合わせて演奏できるようになったか。 ・それぞれの楽器の音色や特徴を感じ取り音楽の楽しさや、面白さを感じ取ることができたか。	○	○	○	17
	情景を描く音楽を味わおう 【知識及び技能】楽曲の歴史的背景や作曲家について学び、登場人物を理解する。【思考力、判断力、表現力等】情景と音楽のかかわりがどう表現されているか。【学びに向かう力、人間性等】国の特徴や文化的背景を理解する。	鑑賞 組曲「動物の謝肉祭」サンサーンス ・楽曲の背景や音楽を形づくっている要素について理解する。 戯曲「ペールギュント」グリーグ 一人の少年の人生を通して聴きなじみのある名曲を数々の聴く。			○	・場面と音楽の働きが生み出す美しさや面白さを感じ取り味わっているか。 ・作曲者の思いや意図を理解し、楽器の音色を味わうことができたか。 ・また感じとったことを言葉にしたりできる。	○	○	○	17
3 学 期	調和を意識して合唱をしよう。 【知識及び技能】強弱記号や発声記号に留意する。 【思考力、判断力、表現力等】詩の内容を理解し、言葉の流れや発声を大切に歌う。【学びに向かう力、人間性等】日本語のイントネーションと旋律の動きを大切に歌う。	混声三部合唱「故郷」 混声三部合唱「AMAGING GRACE」 ・一人一人が主体的に歌い、各パートの音の重なりを意識する。 ・響きあうハーモニーを味わい合唱の喜びを感じる。	○			実技テスト ・各パートの役割を感じ通り正しい音程で歌うことができる。 ・歌詞の内容を表す情景や心情を感じ取り曲にふさわしい表現ができる。	○	○	○	10
	創作 【知識及び技能】和音、コードの理解をする。 【思考力、判断力、表現力等】何かをイメージし音型を探し、曲をつくる。【学びに向かう力、人間性等】始まり方、終わり方を工夫しまと	創作1 ・旋律の雰囲気を変化させよう。 創作2 ・演奏スタイルを変化させよう。			○	・作品ができたら発表し合い、意見を交換することができる。 ・意見を参考に修正し、より良い作品にしようとする。	○	○	○	6
										合計
										70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

芸術 科目 美術Ⅰ

教科：芸術 科目：美術

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：（1・2・3・4組：久保）

使用教科書：（高校生の美術1 日本文教出版）

教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】幅広い美術の知識を備え、そこから湧き出て来る豊富なイマジネーションを実現し、それを日常生活にも活用出来るようにする為の高度な技能を修得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】美術の授業によって導き出されて来る美意識を高め、その確立された判断基準のもとに思考力を高めより高い表現力を生み出せる様にする。
- 【学びに向かう力、人間性等】高い美意識を確立し、それを実現するための強いモチベーションを培い、向上心を持って学びに向かえるような素晴らしい人間性を育成する。

科目 美術科 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
幅広い美術の知識を備え、そこから湧き出て来る豊富なイマジネーションを実現し、それを日常生活にも活用出来るようにする為の高度な技能を修得する。	美術の授業によって導き出されて来る美意識を高め、その確立された判断基準のもとに思考力を高め、より高い表現力を生み出せる様にする。	高い美意識を確立し、それを実現するための強いモチベーションを培い、向上心を持って学びに向かえるような素晴らしい人間性を育成する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	一年間のガイダンス	一年間を通しての美術の授業での授業方針を示し、芸術の本質論を提議する。プリントによる自己紹介や意欲の有無、大小を確認する。	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	1
	ミニチュア壁画づくり	洞窟壁画を自分たちの身の回りの物や風景をもとに現代風に表現する。色鉛筆・サンドペーパー・プリント配布・動画視聴	【知識・技能】 有色下地と色鉛筆の効果的な使い方について理解している。 【思考・判断・表現】 洞窟壁画の成り立ちについて理解し、作品制作に活かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】プリント・作品の完成度の高さと判断する。	○	○	○	3
	グラフィティアートの文字デザイン	洞窟壁画から現代のグラフィティアートへの変遷についての理解し、立体的な文字デザインを修得する。カラーペン、色鉛筆、プリント配布・動画視聴	【知識・技能】 カラーペン・色鉛筆の使い方、立体的に文字を描く方法について正しく理解している。 【思考・判断・表現】 美しく構成できている。独創的である。 【主体的に学習に取り組む態度】十分に完成出来ている。	○	○	○	4
	塑像 オリジナルはにわづくり	はにわについての知識、立体的に形を捉える方法について理解を深め、自分の好きな物をはにわ風に形作っていく。粘土・粘土へら・プリント配布・動画視聴	【知識・技能】 粘土の使い方について正しく理解し、丁寧に仕上げる。 【思考・判断・表現】 はにわらしさについて考え、発想することが出来る。独創的である。 【主体的に学習に取り組む態度】十分に完成出来ている。	○	○	○	7
	キャラクターデザイン Myご当地ゆるキャラ	親しみやすい現代のキャラクターデザインについて分析し、自分にゆかりのある土地の新しいキャラクターを考える。カラーペン、色鉛筆、ケント紙、プリント配布・動画視聴	【知識・技能】 線や色の描き分けの効果を理解し、デザインに役立てる。 【思考・判断・表現】 他人から見て親しみやすいデザインについて考えられている。独創的である。 【主体的に学習に取り組む態度】十分に完成出来ている。	○	○	○	3
	曼荼羅アートづくり	自分の日々の心の動きについて考えたことを曼荼羅風に表現する。カラーペン、色鉛筆、プリント配布・動画視聴	【知識・技能】 宗教美術について理解を深め、作品制作に活かす。 【思考・判断・表現】 繰り返す図柄の形と色を使い分け、複雑に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】十分に完成出来ている。細部までこだわって仕上げていく。	○	○	○	7
2 学期	ブッシュステンド	自分の生活環境の中の一場面をステンドグラス風の切り絵で表現する。ブッシュステンドキット・カッター	【知識・技能】 切り絵の技法とカッターの使用方を正しく理解し、丁寧に仕上げる。 【思考・判断・表現】 宗教美術について理解したことをイメージを取り入れ、作品制作に活かす。 【主体的に学習に取り組む態度】できるだけ細かい装飾を施し、最後まで美しく仕上げる。	○	○	○	8
	多色刷りゴム版画 ミニ浮世絵	浮世絵の多色刷りの技法を理解し、ゴム版画で人物や風景を表現する。	【知識・技能】 用具を正しく安全に使用し、作品を丁寧に仕上げる事が出来る。				

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

芸術

科目 書道 I

教科：芸術

科目：書道 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（ 1・2・3・4 組： 山村 ）

使用教科書：（ 新編 書道 I 大修館書店 ）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・書の表現方法や形式、多様性等について幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 ・筆の基本的な用い方を習得する。	・書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、書的美を味わいとらえたりすることができるようにする。 ・感受した書之美しさ・表現の特徴などをできるだけ言語化し、自らの表現に反映させること。	・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 ・自らの学習をできるだけ客観的に評価し、自ら修正する力を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数	
		漢 仮	漢	仮							
1 学期	1. 書道概説及び基本点画について 【知識及び技能】 文房四宝の基礎的知識や基本的用筆法を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 執筆の際の合理的な姿勢や、中学書写段階までの基本用筆について復習し、考え、意識し実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 以上習得すべき点について、自らの習得度合いについて積極的に考え、修正しながら実践する。	・文房四宝の基礎的知識や手入れの仕方 ・中学校書写段階までの基礎的な用筆の復習 ・用筆の際の合理的な姿勢		○		1. 文房四宝の基礎的知識や基本的用筆法を習得しているか。 2. 執筆の際の合理的な姿勢や、自身の書いたものについて自ら考え、評価・判断できているか。 3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。		○	○	○	5
	2. 唐代の楷書 【知識及び技能】 唐の四大家それぞれの書風の違いについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 四大家の書の具体的な違いについて言語化でき、その違いを、多少は毛筆で表現できるよう努める。 【学びに向かう力、人間性等】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、修正しながら学習できる。	・「書風」とは何か ・初唐の三大家の書を比較鑑賞 ・書写との筆遣いの違いを知る ・唐の四大家の書の用筆・字形構成の違い		○	○	1. 唐の四大家の書風の違いについて理解できたか。 2. 四大家の書の具体的な違いについてできる限り言語化し、毛筆で表現できるよう努力したか。 3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。		○	○	○	15
	3. 北魏の楷書 【知識及び技能】 唐代の書との書風の違いを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 唐代の書との具体的な違いについて言語化でき、且つ毛筆で表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、修正しながら学習できる。	・唐の四大家以外の書を鑑賞・臨書 ・多様な筆遣いを身につける。		○	○	1. 唐代の書との書風の違いを理解できたか。 2. 唐代の書との具体的な違いについてできるだけ言語化し、毛筆で表現できるよう努力したか。 3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。		○	○	○	
	4. 楷書の創作 【知識及び技能】 学習した楷書の書風を生かして書くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 学習した楷書の書風の違いを思い出し、用筆を工夫して表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 書きたい言葉を考え、どのような書風で表現するかを考えられる。	・学習した楷書の書風・筆遣いの復習 ・書きたい文字、言葉、書風の構想と作品制作		○		1. 学習した楷書の書風、筆遣いを生かして書くことができたか。 2. 学習した楷書の書風の違いを思い出し、用筆を工夫して表現できたか。 3. 書きたい文字や言葉、どのような書風で表現したいかを考えられたか。		○	○	○	
2 学期	5. 行書の学習・蘭亭序 【知識及び技能】 蘭亭序の鑑賞と臨書を通して行書の基本的な表現技法を習得する。 【思考力、判断力、表現力など】 字形・用筆の双方から行書の特徴について考え、理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、修正しながら学習できる。	・蘭亭序の鑑賞と臨書 ・字形・用筆の双方から行書の特徴について考え、理解する。		○	○	1. 字形・用筆の双方から行書の特徴について理解できたか。 2. 蘭亭序の鑑賞と臨書を通して行書の基本的な表現技法を習得できたか。 3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。		○	○	○	20
	6. 行書の学習のまとめ・創作・鑑賞 【知識及び技能】 学習した行書の特徴を生かして書くことができる。 【思考力、判断力、表現力など】 どんな言葉を、どのような表現で書きたいかを考え、表現することができる。また他者の作品も鑑賞し、言葉や表現方法について考え言語化する。 【学習に向かう力、人間性等】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、修正しながら学習できる。	・行書の特徴の復習 ・言葉選びと構想及び行書による作品制作		○	○	1. 学習した行書の書風を生かして書くことができたか。 2. どんな言葉を、どのような表現で書きたいかを考え、表現することができたか。また、他者の作品を鑑賞し、表現について考え、述べることができたか。 3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。		○	○	○	5
	7. 仮名の成立と単体の練習 【知識及び技能】 仮名の起源について知り、字形や用筆について理解する。仮名の基本的用筆を習得する。 【思考力、判断力、表現力など】	・仮名の起源及び字形や用筆 ・仮名に用いる道具の手入れ方法				1. 仮名の起源について知り、字形や用筆について理解できたか。仮名の基本的用筆を習得できたか。 2. 仮名の字源を知り、仮名の字形をよりよく理解して書けるか。					

	<p>仮名の字源を知り、仮名の字形をよりよく理解して書くことができる。</p> <p>【学習に向かう力、人間性】 以上の点について、自らの習得度合いについての確に評価し、修正しながら学習できる。</p>	<p>・仮名の字源を意識することにより、仮名の字形をより理解できるようにする。</p>				○	<p>し書\ことができたか。</p> <p>3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。</p>	○	○	○	5	
3 学 期	<p>8. 蓬莱切の臨書</p> <p>【知識及び技能】 臨書を通して仮名独特の字形、連綿などの用筆に慣れ、変体仮名について知る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力など】 字源などもふまえ、仮名の字形、用筆の特徴について考え理解する。</p> <p>【学習に向かう力、人間性】 以上の点について、自らの習得度合いについての確に評価し、修正しながら学習できる。</p>	<p>・蓬莱切の臨書と連綿</p> <p>・変体仮名の理解</p> <p>・仮名の字形、用筆の特徴</p>				○	<p>1. 臨書を通して仮名独特の字形、連綿などの用筆に慣れ、変体仮名について知ることができたか。</p> <p>2. 字源などもふまえ、仮名の字形、用筆の特徴について考え、理解できたか。</p> <p>3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。</p>	○	○	○	3	
	<p>9. 高野切の臨書と散らし書き作品の制作</p> <p>【知識及び技能】 高野切特有の字形、線質、配置の美しさを知る。</p> <p>散らし書きとは何かを知る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力など】 散らし書きについて知り、紙面空間の使い方について考え、制作する。</p> <p>【学習に向かう力、人間性】 以上の点について、自らの習得度合いについての確に評価し、修正しながら学習できる。</p>	<p>・高野切の臨書と散らし書き</p> <p>・散らし書きについて知り、紙面空間の使い方について考え、制作する。</p>				○	○	<p>1. 高野切特有の字形、線質、配置の美しさを知り、また散らし書きとは何かを理解できたか。</p> <p>2. 散らし書きについて知り、紙面空間の使い方について考え、制作できたか。</p> <p>3. 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。</p>	○	○	○	5
	<p>10. 短歌の創作と作品制作</p> <p>【知識及び技能】 一年間の授業で学習した用筆、表現方法などを活かして制作する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力など】 自身や身の回りを観察したりしながら、短歌の題材を探し、短歌・短文を書く。</p> <p>【学習に向かう力、人間性】 自身や身の回りの環境などについて振り返り、粘り強く考え、言語化し、表現すること。</p>	<p>・一年間の授業で学習した書風、書体、用筆、配置等の表現方法の復習・想起</p> <p>・題材の見つけ方などについてとものに考え、短歌・短文を書く</p>				○		<p>1. 一年間の授業で学習した用筆、表現方法などを活かして制作できたか。</p> <p>2. 自身や身の回りを観察したりしながら、題材を探し、短歌・短文を書けたか。</p> <p>3. 自身や身の回りの環境などについて振り返り、粘り強く考え、言語化し、表現できたか。</p>	○	○	○	7
												合計

	Lesson4 Pictograms	<ul style="list-style-type: none"> ・月、日付、曜日、天気 ・Classroom English ・ピクトグラムが国際社会で果たす重要な役割について ・海外の歌 ・動名詞を活用した趣味の紹介 ・不規則動詞 ・動名詞 	○	○	○	○	○	<p>話①日常生活の身近な単語を話すことができる</p> <p>話②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って質問できる (例Where do you live?)</p> <p>話③Classroom Englishなど簡単な質問を話すことができる</p> <p>話④教科書を開き手に内容が伝わるように読むことができる</p> <p>話⑤身近な話題についてYes/Noで答えることができる</p> <p>話⑥海外の歌を歌うことができる</p> <p>書①日常生活の身近な単語を書くことができる</p> <p>書②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って書くことができる (例Where do you live?)</p> <p>書③Classroom Englishなど簡単な指示を書くことができる</p> <p>書④教科書の内容を書くことができる</p> <p>書⑤身近な話題についてYes/Noで書くことができる</p> <p>書⑥海外の歌の歌詞を書くことができる</p>	○	○	○			
	確認テスト④		○				○							
3 学 期	Lesson5 We Are Part of Nature	<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VISTA English Communication I ・オリジナルプリント ・一人1台端末の活用 <p>【指導事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の身近な単語 ・5 W1Hを使った日常生活の身近な話題 ・簡単な質問をすることができる (時刻、好きなもの、相手の名前等) ・日常的なYes/No疑問文 ・月、日付、曜日、天気 ・動物写真家の岩合光昭さんの生き方と自然への思いについて ・海外の歌 ・「私の推し」について ・不規則動詞 ・不定詞 	○	○	○	○	○	<p>聞①日常生活の身近な単語を聞いて理解することができる</p> <p>聞②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って理解できる</p> <p>聞③簡単な質問を聞くことができる (時刻、好きなもの、相手の名前)</p> <p>聞④教科書の内容を開き取ることができる</p> <p>聞⑤身近な話題について聞くことができる</p> <p>読①日常生活の身近な単語を読むことができる</p> <p>読②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って読むことができる</p> <p>読③簡単な質問を理解することができる</p> <p>読④教科書の内容を理解することができる</p> <p>読⑤身近な話題について読むことができる</p> <p>話①日常生活の身近な単語を話すことができる</p> <p>話②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って質問できる (例Where do you live?)</p> <p>話③簡単な質問をすることができる</p> <p>話④教科書を開き手に内容が伝わるように読むことができる</p> <p>話⑤身近な話題についてYes/Noで答えることができる</p> <p>話⑥海外の歌を歌うことができる</p> <p>書①日常生活の身近な単語を書くことができる</p> <p>書②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って書くことができる (例Where do you live?)</p> <p>書③簡単な質問を書くことができる</p> <p>書④教科書の内容を書くことができる</p> <p>書⑤身近な話題についてYes/Noで書くことができる</p> <p>書⑥海外の歌の歌詞を書くことができる</p>	○	○	○	○	23	
	Lesson5 We Are Part of Nature	<ul style="list-style-type: none"> ・動物写真家の岩合光昭さんの生き方と自然への思いについて ・海外の歌 ・「私の推し」について ・不規則動詞 ・不定詞 	○	○	○	○	○	<p>話①日常生活の身近な単語を話すことができる</p> <p>話②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って質問できる (例Where do you live?)</p> <p>話③簡単な質問をすることができる</p> <p>話④教科書を開き手に内容が伝わるように読むことができる</p> <p>話⑤身近な話題についてYes/Noで答えることができる</p> <p>話⑥海外の歌を歌うことができる</p> <p>書①日常生活の身近な単語を書くことができる</p> <p>書②日常生活の身近な話題について5 W1Hを使って書くことができる (例Where do you live?)</p> <p>書③簡単な質問を書くことができる</p> <p>書④教科書の内容を書くことができる</p> <p>書⑤身近な話題についてYes/Noで書くことができる</p> <p>書⑥海外の歌の歌詞を書くことができる</p>	○	○	○	合計		
	確認テスト⑤			○				○					105	

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 家庭 科目 調理基礎

教科：家庭 科目：調理基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：（1組：成田・時安）（2組：成田・時安）（3組：成田・伊藤）（4組：成田・時安）（組： ）（組： ）

使用教科書：（フードデザイン Food Changes LIFE 教育図書）

教科 家庭 の目標：生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を通し、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な知識・技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う

科目 調理基礎 の目標：食品を科学的にとらえ、調理に生かす技術を身につける。
おいしさの要素を理解し、おいしい食事をつくる工夫ができるようにする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品の調理性、調理の基礎及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	食品の特性 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・食品の情報を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品について興味関心を持ち、調理へ生かそうとしている。	①調理の基礎 ・調理をするときの注意点 ②米の調理性 【実験】炊飯を観察してみる 【実技】 ・計量 ・塩と砂糖の重量の違いを調べる 【調べ学習】 ・世界の米料理について、国の特徴や調理法などを調べ学習し、発表する。	【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・食品の情報を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品について興味関心を持ち、調理へ生かそうとしている。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	28
	調理実習 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して前向きに取り組んでいる。	③食品成分表の使い方 ④小麦粉の調理性その1 【実習】 ⑤米を利用した日本料理 ・だし材料の取り扱い ・野菜と根菜の調理 ・野菜の切り方・調理 【実験】 ・ドウ、グルテンの実験 ・だしの実験その1 【実技試験】 ・大豆つかみ	【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して前向きに取り組んでいる。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	
	テーブルコーディネート 【知識・技能】 ・テーブルコーディネートの意義や必要な要素を理解している。 ・各国の食事様式を理解している。 【思考・判断・表現】 ・よりよい食生活について、自分の考えを持ち表現ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・テーブルコーディネートに関心を持ち、学習に取り組んでいる。	⑥テーブルコーディネートの要素 ・五感とおいしさ ・行事や季節とのかかわり ⑦各国料理の食事様式 ・日本料理の食事様式 ・テーブルマナー	【知識・技能】 ・食事様式やテーブルコーディネートの意義や必要な要素を理解している。 ・各国の食事様式を理解している。 【思考・判断・表現】 ・よりよい食生活について、自分の考えを持ち表現ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・テーブルコーディネートに関心を持ち、学習に取り組んでいる。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	
確認テスト②			○	○		1	
2 学 期	食品の特性 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・食品の情報を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品について興味関心を持ち、調理へ生かそうとしている。	⑧小麦粉の調理性その2 ⑨凝固剤の調理性 ⑩肉の調理性 【調べ学習】 ・ひとつの食品について、栄養価や調理法の特徴などを調査する。	【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・食品の情報を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品について興味関心を持ち、調理へ生かそうとしている。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	30
	調理実習 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して前向きに取り組んでいる。	【実習】 ⑪小麦粉を利用した日本料理 ・だしの使い方 ・グルテンの学習を深める ⑫肉を利用した西洋料理・中華料理 ・食中毒予防に配慮した調理 ⑬凝固剤を利用した製菓 ・寒天を利用した調理 【実験】 ・だしの実験その2 ・寒天とゼラチンの違い 【実技試験】 ○食物調理技術検定4級の内容 ・キュウリの切り方	【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して前向きに取り組んでいる。 (ワークシート・レポート)	○	○	○	
	テーブルコーディネート 【知識・技能】	○テーブルコーディネートの要素 ・カラーコーディネート	【知識・技能】 ・食事様式やテーブルコーディネートの意義や必				

	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルコーディネートの意義や必要な要素を理解している。 ・各国の食事様式を理解している。 【思考・判断・表現】 ・よりよい食生活について、自分の考えを持ち表現ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・テーブルコーディネートに関心をもち、学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各国料理の食事様式 ○西洋料理の食事様式 ・テーブルマナー 	<ul style="list-style-type: none"> 要な要素を理解している。 ・各国の食事様式を理解している。 【思考・判断・表現】 ・よりよい食生活について、自分の考えを持ち表現ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・テーブルコーディネートに関心をもち、学習に取り組んでいる。 <p>(ワークシート・レポート)</p>	○	○	○	
	確認テスト④			○	○		1
	調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ⑭魚の調理性 ⑮アレルギー表示について ・アレルギー表示の意味 ・米粉について ⑯卵の調理性 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・各食品の調理性を理解している。 ・材料に応じた調理操作を理解し、技術を習得している。 【思考・判断・表現】 ・安全や衛生に配慮した実習を行うことができる。 ・材料に応じて、適切な調理法を選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・他者と協働し、調理に対して前向きに取り組んでいる。 	○	○	○	6
3 学 期	テーブルコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ○テーブルコーディネートの実践 ・テーマに沿った食事空間を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・食事様式やテーブルコーディネートの意義や必要な要素を理解している。 ・各国の食事様式を理解している。 【思考・判断・表現】 ・よりよい食生活について、自分の考えを持ち表現ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・テーブルコーディネートに関心をもち、学習に取り組んでいる。 	○	○	○	3
	確認テスト⑤			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

工業

科目 工業情報数理

教科：工業

科目：工業情報数理

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～ 4組

教科担当者：（1組：井手、山本） （2組：井手、山本） （3組：井手、山本） （4組：井手、山本）

使用教科書：（工業情報数理（実教出版））

教科 工業

の目標：食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知識及び技能】食品製造に必要な知識と技術、更に材料に関連する必要な知識と技術を習得させる。

【思考力、判断力、表現力等】食品の特性と加工の原理を考え、表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】食品製造について意欲的に品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。

科目 工業情報数理

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数値処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1学期単元：コンピュータの構成と特徴 【知識及び技能】コンピュータを構成している装置とその役割を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】コンピュータの構成を説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】授業中、ノートやプリントへの記入を積極的にやっている。	指導事項：コンピュータの構成と特徴 特徴教材：工業情報数理（実教出版） 入力装置および出力装置の具体例や演算装置、制御装置、記憶装置に当たってはその情報の流れを十分に理解させる。	【知識・技能】コンピュータを構成している装置を具体的に分類することができる。 【思考・判断・表現】それぞれの装置がどのような働きをするのかを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】ノートの記入状況、授業中の態度、発言などを加味し総合的に評価する。	○	○	○	6
単元：コンピュータの基本操作 【知識及び技能】 ①目コンピュータを立ち上げ、電源を正しい操作でシャットダウンできる。 ②回一マ字入力ができる。 【思考力、判断力、表現力等】コンピュータを立ち上げ、シャットダウンの方法を説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】指示されたアプリケーションで作業をしている（インターネット等閲覧するなど授業内容と関係のない行動をとっていない）。	指導事項：コンピュータの構成と特徴 特徴教材：工業情報数理（実教出版） コンピュータのログオンおよびシャットダウンの確認を行う。また、ホームポジション、ローマ字の利用の準備を行う。	【知識・技能】 ①目コンピュータを立ち上げ、電源を正しい操作でシャットダウンできる。 ②回一マ字入力ができる。 【思考・判断・表現】コンピュータを立ち上げ、シャットダウンの方法を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】成果物の取り組み度合いや、授業中の態度、発言などを加味し総合的に評価する。	○	○	○	6
確認テスト①			○	○		1
単元：情報化の進展と産業社会 【知識及び技能】CAD、CAMなどのアプリケーションがどのようなアプリケーションかを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】日常においてどのような場面でコンピュータが利用されているか、また、どのような場面でコンピュータを利用できるかについて思考することができる。 【学びに向かう力、人間性等】授業中、ノートやプリントへの記入を積極的にやっている。	指導事項：情報化の進展と産業社会 教材：工業情報数理（実教出版） 産業用のアプリケーション（CAD、CAM）などの紹介やPOSシステムなど商業に関わるアプリケーションまでを学び、理解させる。	【知識・技能】CAD、CAMなどの用語を理解している。 【思考・判断・表現】日常においてどのような場面でコンピュータが利用されているか、また、どのような場面でコンピュータを利用できるかについて思考することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】授業中、ノートやプリントへの記入を積極的にやっている。	○	○	○	7
単元：ソフトウェアの基礎 【知識及び技能】どのようなソフトウェアがあるかを理解している。また、分類することができる。 【思考力、判断力、表現力等】授業で学んだソフトウェアの特徴を説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】指示されたアプリケーションで作業をしている（インターネット等閲覧するなど授業内容と関係のない行動をとっていない）。	指導事項：ソフトウェアの分類と解説 特徴教材：工業情報数理（実教出版） コンピュータ内のアプリケーション（表計算ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなど）などをどのような場面で使えるソフトであるかを解説し、また、基本ソフトウェア、支援ソフトウェアについても学習する。プログラム言語と基本的なアルゴリズムについても触れる。	【知識・技能】どのようなソフトウェアがあるかを理解している。また、分類することができる。 【思考・判断・表現】授業で学んだソフトウェアの特徴を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】成果物の取り組み度合いや、授業中の態度、発言などを加味し総合的に評価する。	○	○	○	6

	確認テスト②						○	○	1	
2 学 期	単元：計算機の利用 【知識及び技能】関数電卓を利用し、複雑な計算を行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】問題の解き方を自身で考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】ひたむきに作業することができる。	指導事項：計算機の利用教材：3、4級計算技術検定問題集（全国工業高等学校協同会） 計算技術検定4級の学習を行う。一人一台で、関数電卓を利用する。	【知識・技能】 ①関数電卓を利用して複雑な計算を行うことができる。 ②卓上電卓を使いこなすことができる。 【思考・判断・表現】難しい問題を、いまままで身につけてきた知識を活用して解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】ひたむきに作業することができる。				○	○	○	7
	単元：ワードプロセッサの練習① 【知識及び技能】マイクロソフトオフィスのワードを利用し、文章を見本通りに書くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】太字や斜体などのフォントの文字を利用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】指示されたアプリケーションで作業をしている（インターネット等を閲覧するなど授業内容と関係のない行動をとっていない）。	指導事項：ワードプロセッサの利用教材：自作プリント 見本となる文章をワードを利用して入力する。ローマ字入力になれることのほか、フォントの変更や表の挿入なども行う。	【知識・技能】見本通りに文書を作成することができる。 【思考・判断・表現】太字や斜体などのフォントの文字を利用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】成果物の取り組み度合いや、授業中の態度、発言などを加味し総合的に評価する。				○	○	○	6
	確認テスト③						○	○	1	
	単元：情報化社会とモラル 【知識及び技能】知的財産の考え方を理解している。また、権利を守るための手段を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】インターネットの利用に関して知的財産が生じるか否かを判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業中、ノートやプリントへの記入を積極的に行っている。	指導事項：情報化社会とモラル教材：工業情報数理（実教出版） 知的財産権（著作権、意匠権、実用新案権など）の種類について講義する。また、どのような場合この権利が生じ、どのような権利なのかを指導する。	【知識・技能】 ①知的財産権について理解している。 ②権利を守るための手段を知っている。 【思考・判断・表現】インターネットの利用に関して知的財産権が生じるか否かを判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】授業中、ノートやプリントへの記入を積極的に行っている。				○	○	○	7
単元：ワードプロセッサの練習② 【知識及び技能】マイクロソフトオフィスのワードを利用し、自身で考えた文章をまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】太字や斜体などのフォントの文字を利用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】指示されたアプリケーションで作業をしている（インターネット等を閲覧するなど授業内容と関係のない行動をとっていない）。	指導事項：ワードプロセッサの利用教材：自作プリント 自身で考えた文章をワードを利用して入力する。ローマ字入力になれることのほか、フォントの変更や表の挿入なども行う。	【知識・技能】見やすい様式（ユニバーサルデザイン）を意識した文書を作成することができる。 【思考・判断・表現】太字や斜体などのフォントの文字を利用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】成果物の取り組み度合いや、授業中の態度、発言などを加味し総合的に評価する。				○	○	○	6	
確認テスト④						○	○	1		
単元：情報のセキュリティ管理 【知識及び技能】コンピュータのセキュリティに関して深く理解している。 【思考力、判断力、表現力等】サイバー攻撃に対する対応策を講じることができる。 【学びに向かう力、人間性等】授業中、ノートやプリントへの記入を積極的に行っている。	指導事項：情報のセキュリティ管理教材：情報工業数理（実教出版） コンピュータセキュリティについてサイバー攻撃に対する対応策について、また、暗号について講義する。	【知識・技能】コンピュータのセキュリティに関して深く理解している。 【思考・判断・表現】サイバー攻撃に対する対応策を講じることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】授業中、ノートやプリントへの記入を積極的に行っている。				○	○	○	6	
単元：プレゼンテーションソフトの利用 【知識及び技能】マイクロソフトオフィスのワードを利用し、自身で考	指導事項：プレゼンテーションソフトの利用教材：自作プリント プレゼンテーションソフトを利用して自己紹介のスライドを作ら	【知識・技能】 ①見やすい様式（ユニバーサルデザイン）を意識した文書を作成することができる。 ②他者にわかりやすいプレゼンテーションを								

3 学 期	<p>た文章をまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】太字や斜体などのフォントの文字を利用することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】指示されたアプリケーションで作業をしている（インターネット等を閲覧するなど授業内容と関係のない行動をとっていない）。</p>	<p>せ、発表させる。</p>	<p>行うことができる。 【思考・判断・表現】太字や斜体などのフォントの文字を利用することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】成果物の取り組み度合いや、授業中の態度、発言などを加味し総合的に評価する。</p>	○	○	○	8
	確認テスト⑤			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

工業（デザイン） 科目 デザイン基礎

教科：工業（デザイン）

科目：デザイン基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：1・2組（関谷 内田 松尾）、3・4組（海老澤 内田 松尾）

使用教科書：（デザイン実践）

教科 工業（デザイン）

の目標：

【知識及び技能】様々な材料や表現手段を体験し、その特徴を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】学んだことをふまえてデザインを考え、形にすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】手を動かすこと、デザインすることに興味を持つ。

科目 デザイン基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①本時の学習内容をプリントに記入することができる。 ②道具を正しく使用することができる。 ③作品を完成させる。	①各素材やアプリケーションソフトの特徴を理解することができる。 ②基本条件をふまえたデザインを描くことができる。 ③作品を丁寧に仕上げるることができる。	①説明を集中して聞くことができる。 ②教員と対話し、より良いデザインを模索しようとしている。 ③制作に集中して取り組んでいる。 ④片付け掃除に取り組んでいる。 ⑤反省・感想をプリントに記入することができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A-1 単元：グラフィック	【Adobe Illustrator】 ・基本動作の学習 ・パターンデザインについて ・トーン（色）について ・データの出力（プリントアウト）について ・一人一台端末を活用（情報収集）	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・PCや周辺機器の正しい使用方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・MacPC、周辺機器、Adobe Illustratorの特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザインを模索する態度を養う。	○	○	○	8
	B-1 単元：クラフト	【陶芸Ⅰ】 ・たたらづくりによる食器制作基礎 ・釉かけ方法	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・粘土や釉薬の特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。	○	○	○	8
	C-1 単元：造形基礎	【クロッキー】 ・モノのカタチを素早くとらえる	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、紙への表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。	○	○	○	8
2 学期	A-2 単元；グラフィック	【Adobe Photoshop】 ・デジタル一眼レフまたはミラーレスによる作品写真撮影 ・フォトレタッチ ・デジタルサイネージの活用 ・一人一台端末を活用し、構図について学ぶ	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・PCや周辺機器の正しい使用方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・カメラ、MacPC、周辺機器、Adobe Photoshopの特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザインを模索する態度を養う。	○	○	○	8
	B-2 単元：クラフト	【ガラス】 ・フュージングによるカトラリー制作基礎 ・一人一台端末を活用し、制作した作品の写真撮影を毎時間行い、自分の成長過程を記録する	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・ガラスの特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。	○	○	○	8
	C-2 単元：造形基礎	【デッサン】 ・デザインの基礎基本 ・ものの見方とものの形をとらえる学習 ・鉛筆の削り方	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、紙への表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。	○	○	○	8
3 学	A-3 単元；グラフィック	【箱制作】 ・Adobe Photoshopによるデジタルカラーラージュ ・Adobe Illustratorとカッティングプロッター、UVプリンター、レーザー彫刻機を利用した箱づくり ・一人一台端末を活用し、資料を収集する ・次年度のパッケージデザインへとつなげる授業	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・PCや周辺機器の正しい使用方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・カメラ、MacPC、周辺機器、Adobe アプリの特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザインを模索する態度を養う。	○	○	○	8
	B-3 単元：クラフト	【陶芸Ⅱ】 ・手びねりによる食器制作基礎 ・次年度の陶芸（ろくろ、絵付け）へつなげる授業	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・粘土や釉薬の特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。	○	○	○	8

期			<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。 						
	C-3 単元：造形基礎	<p>【色彩構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色彩に関して理解し、画材を適切に用いてグラデーションを作成することができる。 	<p>出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画材の使い方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。 	○	○	○	<table border="1"> <tr> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>70</td> </tr> </table>	6	合計
6									
合計									
70									